

TITLE	タオル	重松 清	P.	一八 二二	4
SUBTITLE	前回の続き		DATE	.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

③ タオルが社内での場面

二ライナ人が持てて手写真とともに父や祖父についての話と聞く様子が書かれている。

Q P.14 タオルが何を聞いて、少年が頬と涙を拭いて何故か？

→ もうわいわや人と話せばいいことを実感し、イサカ初めて悲しさと絆びついでから

※ ここで初めて涙くただきが大切。

○ タオルと巻く祖父の写真を見て

“おじいちゃんといふはタオル”といふイメージを強く実感している。

↓ 昔も今も、最後、漁に出でたがいもいつも

だ。

○ 祖父の手書きの年賀状を見て

これからは見られない祖父の字

自分と含め三世代で船に乗れたらと

いう祖父の思い

↓ 少年にひとて祖父への想いや祖父のいがい
寂しさが強まるところの内容

※ では少年の気持ちを直接書かれていないが、少年の思いを想像するところから。

→ 今もう書かれている部分を想像するのも大切。

第三場面まとめ

二ライナ人の会話、祖父の写真や年賀状が少年に祖父の死を実感させ、悲しさや寂しさを感じさせるところがけいがつた。